

第6回公立岩瀬病院  
中長期計画評価委員会会議録

平成27年3月30日

## 第6回公立岩瀬病院中長期計画評価委員会会議録

日時 平成27年3月30日（月）

午後2時

場所 公立岩瀬病院 外来棟大会議室（3階）

### 議題

- 1 公立岩瀬病院中長期計画の進捗状況について
- 2 公立岩瀬病院中長期計画見直し案
- 3 産科・婦人科建設事業概要
- 4 その他

---

### 出席委員（7名）

須賀川市社会福祉協議会会長	小林 清三
須賀川歯科医師会会長	田代 直也
須賀川薬剤師会会長	細井 正彦
須賀川市健康づくり推進員会会長	相楽 栄子
鏡石町保健委員会副会長	柳沼 信夫
天栄村国民健康保険運営協議会会長	小針 光治
玉川村住民代表	鈴木 一夫

### 欠席委員（2名）

須賀川医師会会長	西間木友衛
須賀川青年会議所理事長	佐藤 浩之

---

### 説明のため出席した者

企業長	伊東幸雄	院長	三浦純一
副院長	大谷 弘	副院長	土屋貴男
副院長	安達恵美子	事務長	菅野俊明
参事兼総務課長	塩田 卓	医事課長	有賀直明
病院建設対策室長	鎌田大輔		

午後2時00分 開会

○企業長（伊東幸雄君）

皆さんこんにちは。本日は年度末の押し迫った時期となりましたが、第6回公立岩瀬病院中長期計画評価委員会にご参集をいただきまして誠にありがとうございます。

当評価委員会は、平成24年度から5ヶ年計画の病院運営指針である『公立岩瀬病院中長期計画』について、この取り組み状況の点検及び評価並びに今後の病院運営のあり方などについてご意見やご提言をいただき、計画の着実な実施と今後の病院経営の改善を図るために設置したものでございます。

病院経営につきましては平成21年4月施行の前計画であります『公立岩瀬病院改革プラン』を引き継ぐかたちで、着実に安定的な経営を目指すために、平成24年度を初年度とした新たな5ヶ年計画として、4つの基本方針として、①救急医療体制の強化、②地域医療完結型医療の推進、③地域医療に貢献する人材の育成、④地域住民との協働による健康づくりの推進、を掲げ、これら役割を果たすため、7つの重点課題を設定して、『公立岩瀬病院中長期計画』をスタートさせているものでございます。本計画でございますけれども、今年度がちょうど5年度計画の中間年度ということになります。この間、外部環境の変化、あるいはこの後説明を申し上げます産科・婦人科の開設、さらには今年度から始まっております病床の機能報告制度というものに基づく当院の病床機能の評価と今後のあり方の検討など、新たな課題に対応するために、これまでの計画の進捗状況あるいは課題を再検討し、残る2年度の指針として見直しをしてまいりましたけれども、このたび、見直し案を取りまとめております。

この後、事務局より詳細をご説明申し上げますので、この見直し案につきまして、各委員の皆様のご審議を賜りまして、平成27年4月より見直し後の計画をスタートさせていきたいと、このように思っております。

次に、前回の委員会以降の病院運営の概要についてご報告申し上げたいと思います。

平成26年度、年度前半は旧外来棟の解体工事、さらに引き続きます駐車場などの外部環境整備工事、こういったものが連続的に行われまして、患者さんには不便をかけることとなっておりますが、8月のグランドオープンを機に環境も整備をさ

れましたし、また院内でも患者増のための取り組みを積極的に推し進めてきたところでございます。

結果、入院につきましては、2月末現在でございますけれども、6万5,714人ということになりまして、この数字は前年度の同期と対比いたしますと、4,285人ほど増えております。病床稼働率にして81.7%です。外来の患者さんも同じ2月末で6万5,236人ということになりまして、これも前年度対比で5,816人ほど増えたということになっております。特に、年度後半、患者数が増加傾向に転じてきておりまして、前年度を大きく上回る実績を得ることができたところでございます。

先日、3月26日になりますけれども、企業団議会の3月定例会において可決されました平成27年度病院事業会計予算の執行に当たりましては、このような患者増の流れを踏まえまして、限られた医療資源を最大限、地域医療に生かす体制をとりながら、入院を1日当たり210人、病床稼働率にしますと87.5%になります。外来のほうは1日当たり320人、これを予算では見込んでおります。この達成に向けまして、最大限の努力をしてみたいと考えております。

次に、地域で子供を産み育てる医療環境の整備ということでございますけれども、当院への産科・婦人科の開設につきましても、28年度開設という目標でございますが、27年度、28年度の2カ年計画の継続費として建設費用を予算計上しております。当地域の将来構想を見据えたときに、子供を産み育てる環境の整備が大きな財産となりまして、地域発展の重要な要素となるものと考えておりますので、地域医療における当院の役割を果たしていきたいと思っております。

さらに、新年度から須賀川市との連携で健康長寿推進事業を展開してまいります。その一環として、もう既に福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンターのほうから外来診療の支援などもいただいておりますので、引き続きまして、医療提供体制の向上にも努めてまいり所存でございます。

なお、新年度におきましても、常勤医師の招聘が喫緊の課題でございますので、福島県立医科大学への派遣要請とあわせまして、関東圏さらには関西圏など県外の大学病院にも招聘活動を続けてまいりたいと思っております。

今後とも、積極的に整備をいたしました病院施設、あるいは新たに導入いたしました高度医療機器を最大限活用しながら、安定的な黒字基調の病院経営を目指しまして、より実効性のある改革・改善に取り組んでまいります。

また、病院と病院、病病連携、あるいは病院と診療所、病診連携を推進いたしまして、地域の皆様から信頼される病院づくり、これも職員一丸となって進めてまいりますので、委員皆様方の特段のご支援、ご指導をお願い申し上げます。

本日、評価委員会におきましての議題ですが、公立岩瀬病院中長期計画の進捗状況等についてなど3件でございます。詳細について後ほど事務局から説明を申し上げます。

なお、私のほうから1つお知らせといたしますか、申し上げますけれども、菅野事務長につきましては、平成22年4月から5年間、いわゆる条例の任期つき職員として事務長職を担っていただきました。この間、東日本大震災を挟みまして、病院の改善・改革にご尽力いただきましたけれども、5年の任期を満了ということで3月31日をもちまして退職ということになりました。後ほどご挨拶いただきたいと思っておりますけれども、なお、後任につきましては、同じ条例の任期つき職員といたしまして、日本政策投資銀行ご出身の松田広信さんに、選考の結果4月から事務長職をお願いするというようになっておりますので、ご報告申し上げたいと思います。

委員の皆様方には忌憚のないご意見をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。よろしく願いをいたします。

○総務課長（塩田 卓君）

それでは、会議に入らせていただきます。

会議の進行につきましては、本会設置要綱第5条第1項の規定によりまして、会長が務めることになってございますので、小林会長、よろしく願いいたします。

○会長（小林清三君）

どうも皆さん、ご苦労さまでございます。

それでは、座って会議に入らせていただきます。会議進行につきましては、委員各位にひとつご協力いただきますよう特にお願いを申し上げまして、会議に入らせていただきます。

初めに、公立岩瀬病院中長期計画の進捗状況について、当局からご説明をお願いします。

○事務長（菅野俊明君）

ご苦労さまです。

進捗状況について、私のほうからご説明いたします。

資料1のほうをごらんいただきたいと思います。

昨年の4月からこの2月までの達成状況ということで、中長期計画目標達成のための具体的な取り組みということで示している目標について、どうなったかということを示した表になってございます。

まず、目標達成のための具体的な取り組みの1、民間的経営手法の導入ということで、まず、民間病院会計に準じた会計制度の採用ということで、これは昨年4月から公立病院の公営企業会計制度の改定、これがございまして、企業会計に近づけた会計基準が新たに見直しをされて、これ既に導入してそのように進めております。今年度の新会計基準に沿った決算報告が、これから準備をして、議会のほうには9月に報告する予定でございます。

次に、主なところで報告をさせていただきたいと思いますが、2の収入増対策、医師の招聘ということでございますが、今年度は昨年度から内科、整形外科、外科、小児科で各1名、計4名の常勤医師、増員してスタートいたしました。

また、この9月、10月から福島医大の臨床研究イノベーションセンターによる医師支援がございまして、計6名の先生方が、曜日で2名、1名のときもあるんですが、水曜日以外、月、火、木、金、外来診療を総合診療科にというところでいただいております。イノベーションセンターの先生方が来ていただいてから外来患者がぐっと増えてきておりますので、それはまた後ほどご説明いたします。

次、2ページのほう、地域医療連携、ここの課題では、紹介率・逆紹介率、今年度は55%、逆紹介率は40%の目標で来ましたが、2月までの平均で40.6%、逆紹介率が47.3%ということで推移しております。紹介率につきましては、医療法の改定がありまして、計算の方法は昨年7月より新しい方式で数字が算定されるようになりましてから、若干、当院のような救急に力を入れている病院については算定率が少し良くなるような計算方式になっております。

オープンシステムの登録医の先生方は全部で138、病院・診療所で108人の先生方、歯科の先生で30人ということになってございます。

次に、地域包括ケアシステム、保健・介護・福祉とのネットワークということで、この間考える会ということで意見交換の場を持ってきましたが、この会議の最初の取り組みとして、10月18日、認知症講演会とシンポジウムを158名の市民の皆さんの参加で成功させることができました。

次に、3ページのほうをごらんいただきたいと思います。

軽費削減・抑制対策ということで、医薬品・材料費の削減、こちらジェネリックの医薬品採用の促進ということなのですが、採用品目は、これも2月末の数字なのですが、採用品目1,440品中、後発品は181ということでございまして、後発品の率は9%の目標に対して12.57%ということでございます。

代替品の採用による経費削減、こういったものを医療材料のほうでは実施することができています。特に手術室中心に14品目、大体合計で247万円相当の削減をこの間実施しております。

それから、4ページのほうをごらんいただきたいと思います。

広報活動の強化でございますが、出前講座の推進ということで、4月から延べで、これも2月末まで、この間19回実施しております。これは延べ参加者が443名ということで、これも昨年に続き非常に好評をいただいて、積極的に取り組んでいるところです。

あと、当院のホームページについても改善を系統的に実施しましたが、来年度の課題になりますけれども、今、特に若い方、医師、先生方はこのホームページはスマートフォンで閲覧、ウオッチングされているケースが非常に多くなってきましたので、当院のホームページもスマートフォンに対応できるように改善しようということで、今、研究をしております。

それから、病診連携で登録いただいている先生方を対象に、この間「連携通信」を4号発行してございまして、これは定期配布800部のほか、外来と入院患者さんにも新たに今年度よりお配りしてごらんいただいているような形にしております。

広報活動については、引き続き26年度の本館の経過を踏まえて、来年度はもう少し積極的に取り組んでいこうということで考えております。

それから、あと、患者満足度の持続的な向上ということで、今回、ボランティア組織、病院友の会の立ち上げ、25年度に引き続いて対応しています。患者会組織「友の会」の会員数は現在108人ということで、まだ若干伸び悩んでいるところですが、こちらは、来年度引き続き力を入れて取り組んでいきたいと思っております。

次に、別紙ということで、患者数のグラフを皆さんのお手元のほうに配付させていただいていますが、上のほうが、これは月別の延べ患者数ということで示したグラフになってございます。オレンジが昨年、青が今年度ということで、来院患者は

6月以降毎月、昨年度と比べて増加しております。

また、別の資料でいいますと、月単位、1日単位、何人ぐらいいらっしゃるのかということで見えていますが、大体2月まで、4月から平均で295ほど、300にちょっと足りないぐらいの、1日当たりですね、患者数ということで推移しております。この数は、外来につきましては、21年度がこの間のピークで、21年度1日当たり359人ほどだったんですが、毎年25年度まで外来患者については減ってきているんですが、昨年度1年間、25年度でいいますと265名でしたので、1日、大体25名から30名は増えて、今年度は推移をしております。

下は入院の患者数ということですが、今年度の前半は昨年度と同じような推移をしていますが、9月以降、伸びてきまして、10月は大体似たようなところでしたが、11月以降、非常に入院患者さんも大きく伸ばしてきております。

これは、先ほどお話ししましたように、9月から医大の臨床研究イノベーションセンターの先生方が外来総合診療科ということで入っていただきましたことと、院長がかなり救急車を受けていただくように体制を、総合診療科の先生方に来ていただいて、バックアップということで、そういう体制だったら救急も積極的に受けて、その結果、外来患者さんも増えて、そこから入院につながるケースが多くなってということで、今年度後半から推移してきています。

入院については、これもずっとなかなか伸び悩んでいたところですが、ちょうど23年度、震災のあった年が、1日当たり、1年間の平均で197人の入院患者さんで推移していたんですが、23年度に追いつくような形にはなっています。10月以降だけで比べますと200は超すような平均入院患者さんになっているかなということでございますので、そういう外来患者数、入院患者数、後半以降の伸びの推移を見ながら踏まえて、27年度の病院の入院患者、外来患者数の目標は、入院を1日210人、外来を320人という目標で予算は編成してございます。

私のほうから進捗状況についてご報告申し上げました。以上です。

○会長（小林清三君）

ご苦労さまでした。

ただいま公立岩瀬病院中長期計画の進捗状況について説明がございましたが、委員の皆様、ご質問、ご意見等ございませんか。

はい、どうぞ。

○天栄村国民健康保険運営協議会会長（小針光治君）

広報活動の強化という中でですが、チラシとか案内等については病院で発行するものには制限があるというんですか、一般に出せないという話を聞いたことがあるんですが、その辺はどうなのかちょっと教えていただければと思います。

○会長（小林清三君）

はい、どうぞ。

○事務長（菅野俊明君）

病院、医療の広報については、医療法で定められていまして、派手な宣伝は一般の商業的な広告とはちょっと趣が違っていまして、余りほかの病院と比べて、ほかの病院にはない数字的なものとか、うちはこういうふうにやっていますということ、例えば医師の数とか、こういう診療科をやっているとか、そういうかなり厳選された内容でしか広告できないようになってございます。そこは、最近、それでも5年前には大分緩和はされたんですけども、制限ある形になっております。

ですから、新聞広告に、今度こういう先生が来て、こういう診療科を始めるので、ぜひ来てくださいますかということではできない形になっており、かなり制限はございます。

○会長（小林清三君）

よろしいでしょうか。

質問、ほかにございませぬか。

はい、どうぞ。

○須賀川薬剤師会会長（細井正彦君）

薬剤師会としては、ジェネリック医薬品の使用促進ということで、病院さんのほうでは一応パーセンテージを上げる、要するに使用促進の方向で考えていると捉えてよろしいのでしょうか。

○会長（小林清三君）

はい、お願いします。

○院長（三浦純一君）

病院長の三浦です。

薬事の委員会を通じて積極的にジェネリックを入れていこうということでやっています。それで、自治体病院の中ではある程度上位のほうに、ジェネリックの利用

率が高いということで位置されているので、このまま続けていこうということで進めています。

○須賀川薬剤師会会長（細井正彦君）

ありがとうございます。

○会長（小林清三君）

よろしいでしょうか。

次に、ご質問の方、どうぞ。

○須賀川歯科医師会会長（田代直也君）

すみません、座ったままで。歯科医師会の田代ですけれども、2ページのところの経費削減・抑制対策のところ、いわゆる認定看護師の活躍というのがあるんですけれども、これからもこの認定看護師さんについては積極的に活用していこうというお考えなのか、その業務範囲等について何かお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。

○会長（小林清三君）

事務局、お願いします。

○院長（三浦純一君）

私どもの病院ではいち早く、ほかの施設に先駆けて認定看護師による看護外来というものを設けておまして、それを積極的にやっけていこうと。それで、いろんな種類の認定看護師がいて、年々、1人ぐらいつ新しく認定看護師を入れていきます。例えば、緩和療法のための人とか、あとストーマ等の面倒を見られる人、あと糖尿病、それから感染症の認定看護師などを育てています。

それから、もう一つ、一方では、日本医科大学の救急のところ、留学をさせていろんな資格を取って戻ってくるというようなことを進めていますので、看護外来も含めて認定看護師を充実させていこうということで進めています。

よろしいでしょうか。

○須賀川歯科医師会会長（田代直也君）

ありがとうございます。

○会長（小林清三君）

よろしゅうございますか。

ご当局のほうで補足はないですね。

ほかにございますか。

なければ、次に、公立岩瀬病院中長期計画見直し案について、当局からご説明をお願いします。

はい、どうぞ。

○事務長（菅野俊明君）

では、資料2のほうをごらんいただきたいと思います。

企業長も挨拶のほうで触れたとおりに、今回、中長期計画の見直しを図りました。3年が過ぎて4年目、5年目の目標を見直したということなんですが、中長期計画は余り大きくは変えないで、この見直し案の赤字で示したところが修正あるいは新たに追加、あと、表が25、この中には示されているんですが、新しい数字については、新しい統計データに基づいて、数字については可能な限り訂正をしました。

それで、主なところをまずページごとに簡単に説明させていただきます。

2ページのほうに中長期計画の見直しを図るということで簡単に触れております。

次に、5ページですね、これは外部環境ということでございしますが、【3】、ここは中長期計画では、震災後、外来棟を建設するというで別のところで章立てて触れていましたが、完成をして1年以上運用をもう既に開始していますので、こちらのほうに簡単に建設の内容については盛り込みました。

それと、6ページ、【4】は新しく追加したところでございます。国の制度が、社会保障制度が改定されましたので、それに基づいて医療分野では、医療・介護総合確保法という法律が既に施行されておまして、特にこの中で言っていますのは、全国の急性期の病院をもう少し圧縮していきましようということで、全国の急性期の病院を見直すということで、それぞれの病院から病床機能を報告をして、それに基づいて県が地域医療ビジョンを策定しますということがこれから開始をさせていただきますので、その内容について簡単に触れております。

それから、8ページは新しいデータを表の中で示しております。9ページについても、当院の地域別患者数は新しい数字に入れかえております。

次に、改革プランの取り組み評価というところで、11ページでございますが、中長期計画で平成23年度のところは見込みの数字で示していたところですが、これらの実績の数字をこちらのほうに入れ直しました。あと、12ページについても実績の数字、13ページ以降、平成23年度の数字については実績の数字をあらわしております。

す。

次、16ページ、高度先進医療の推進で、1) のところですね、現状と課題で、地域医療支援病院承認要件というところを、文章のところと表のところを赤字で示していますが、これも先ほど申し上げましたが、昨年7月から医療法の改正によりまして、地域医療支援病院の承認要件が変更になりまして、特に紹介率・逆紹介率の計算の仕方が若干変わりました、こういうように紹介率・逆紹介率が推移しているんですが、26年度は新しい計算式になって、若干、特に逆紹介率のほうが上がったという形になります。

3つ目の下のほうの表なんですが、目標というところで、平成28年度については、27年度、28年度以降、紹介率65%、逆紹介率45%、どちらもクリアしなくちゃいけないんですが、これからは、紹介率50%、逆紹介率70%、どちらかの目標を立てて取り組むということが必要になってきます。これはもう少し議論していきましょうということで、目標は二通り設定をしているところでございます。

それから、19ページの表のほうは新しいデータを入れております。20ページも新しい数字を入れております。

22ページ、医師招聘活動のところ、目標達成に向けた取り組みというところでございますが、①総合診療科医の招聘活動を強化する、これは新たに追加した目標でございます、とにかく今の現状を踏まえて一番優先的に取り組むべき医師招聘の課題ということで位置づけております。

それから、24ページをごらんください。24ページの【5】保健・医療・介護・福祉のネットワークの核となる病院づくり、現状と課題の赤字の部分は、追加の部分と少し手直しをしております。これは先ほどの医療法の改定によって国の制度が変わりましたので、それに基づいて、当院ではどういうふうこれを捉えて考えていくのかということを中心に触れております。

次に、25ページの⑤、これは追加した部分でございます。須賀川市が福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンターに委託している健康長寿推進事業、これは実際は来年度から、この事業としては本格的に、健診事業ですね、始まっていきますが、当院としてもこの事業を共同事業として取り組むという位置づけでこちらのほうには触れております。

これは、須賀川市のほうがモデル地域をつくりまして、特定健診、現役世代の特

定健診、あと75歳以上の後期高齢者の方についても健診をあわせて実施しているところなんです、その健診のメニューに新たに特殊健診として追加をしまして、健診率はなかなかまだ決して高くございませんので、健診率を高めて、その健診で得たデータをずっと追いかけていって、健康長寿がさらに促進されるようにいろんな事業を一緒にバージョンアップしていきたいということで取り組まれている事業でございます。

その特殊健診について、その部分は当院で、これも須賀川市から委託を受けて開始しようということで取り組まれる事業になります。このことをここで述べております。そして、健診率の新しい数字をこの表のほうで示してございます。

26ページのほうの赤字の真ん中のところ、目標5、これは新しく追加した目標でございます。病床機能報告制度によって当院の病床機能の評価と今後のあり方を検討ということでございます。これは、全国的に7対1の看護体制をとっている急性期の病院については、6年先を見越してずっと7対1を取得していくんですかという形の方向性が義務づけられておりますので、その検討をどういうふうにしていくのかということで目標に追加をしています。

あと、下のほうは、ホールボディカウンタ導入後の検査の実績を、これは表も赤字に示すところですが、新たにつけ加えております。

それから、28ページ、⑨以降新たに追加いたしております。

それから、29ページ、経営基盤の強化、これについては実績と数字目標ということで示していたわけですが、24年、25年は実績ベースの数字、26年度については見込みの数字で示してございまして、27年度、28年度については新たな目標の設定をしております。

それから、この目標、27年度、28年度のほうには、後で述べますが、産科・婦人科の分は含んでおりませんということで、ご承知おきいただきたいと思います。

それから、数値目標達成のための具体的な取り組みというところでは、赤のところを新たな追加目標としてございます。

次に、32ページです。32ページ、地域完結型の医療ネットワークを構築、中長期計画の黒字のところまでの記述でしたが、福島病院との統合問題、結局不調に終わりましたが、その経過を簡単に赤字のところ述べております。

そして、安心して子供を産み育てる地域づくりに向けてということで、簡単にこ

の間の経過を述べております。

そして、当院の役割というところで、産科・婦人科の開設ということを中心にここで示してございまして、具体的な建設の概要につきまして、施設概要と工程、それと概算事業費ということで33ページのほうに示してございます。こちらのほうは後でまた建設対策室長のほうから報告をしていただきます。

34ページに、収支モデルとしまして、これは周産期医療の部分は除いた産科・婦人科の入院・外来の一応の収支モデルということでこちらのほうにはお示ししました。

次に、経営形態の見直しということで35ページ、こちらのほうは【2】を新たに追加で記述しております。この課題については、この間、震災以降ですね、安心して産み育てる環境づくりに向けた取り組みや、それに伴う経営基盤の確立、運営強化など新しい課題がこの間出てきましたので、この課題の対応の進捗と並行してさらなる検討が当然必要になっておりますので、またこの間について、この辺の課題を含めて検討することが必要になりますので、統合化に向けた課題については、次の中長期計画に引き継ぐことも含めまして、引き続き27年度、28年度についても検討していくということにしております。

以上が、主に赤字で示した変更、追加の部分の説明ということで、これで27年度、28年度については大体の計画として進めていきたいということで考えております。

私からは以上でございます。

○会長（小林清三君）

ただいま公立岩瀬病院中長期計画見直し案についてご説明がございましたが、委員の皆さんからご質問、ご意見等を賜りたいと思います。

いかがでしょうか。ご遠慮なくご発言、お願いします。

はい、どうぞ。

○須賀川歯科医師会会長（田代直也君）

地域がん診療連携拠点病院の指定を目指すということになっておりますけれども、いろんながんについて記載されておりますけれども、ここが今後ふえるであろう前立腺がんとか、それに対する病院の取り組みとか、それについて将来的な見通しとかおありになれば教えいただきたいと思うんですけれども。

○会長（小林清三君）

ご当局のご答弁をお願いします。

はい、どうぞ。

○院長（三浦純一君）

ありがとうございます。前立腺がんは増えているというか、PSAをはかるとどうしても出てきて、今のところ大体水曜日に、前立腺の生検が大体3名ぐらいずつやっています。それに伴ってこのがんの患者さんは増えてくるんですが、今のところ常勤の泌尿器科の医師が1人なので手術ができないような状況で、ほかの病院に送っているのが現状です。

その医師も64歳で、65歳になると退職年齢ということになってしまう。もう一人どこからリクルートしてくるのかなというのがこれからの課題になると思っています。

ただ、増えていることは事実であって、それは認識しているんですけども、前立腺のところは泌尿器科医がいなるといけないので、なかなか苦しいところがあるんですが、昨年と一昨年を比べると、例えば外科なんかは一昨年が516例の手術だったんですけども、昨年1年間で791例と150%ぐらいの伸びを示しているので、それに伴ってがんの患者さん、それから外来化学療法室、新しい外来棟ができたんですが、そこを使う患者さんもしっかり増えてきているような状況ですので、そういったことでカバーしていこうかなど。

あとは、将来的に福島医大から泌尿器科の医師を招聘しながら、前立腺がんに対しては対応していけたらいいなと考えています。

○会長（小林清三君）

ほかにございませんか。

○須賀川市歯科医師会会長（田代直也君）

19ページに、放射線治療装置導入、28年度、次期計画となっておりますけれども、実際、これから入れるとなると、粒子線ということになるんでしょうか、当然、粒子線とかそういう感じの。つくるといってお考えが、そういう方向で行くのかということなんですけれども。

○院長（三浦純一君）

放射線治療に関しては、外科とかそのほかの科で術後もしくは術前の放射線治療が必要なものについては検討していく必要があると思うんですが、私たちのこの地

域の中でのニーズというのは、高度先進医療ではなくて二次救急をしっかりと受けるという役割を持っているんだと思いますので、例えば建設だけというか、導入するだけで20億円もかかるような重粒子線とか何とかというもの、あれは80億円ですね、とても、産科・婦人科病棟建てるだけでも精いっぱいなので、なかなかそこには手が出ないのかなど。

そういったすみ分けを明確にしながら、経営の改善というのを目指していければなど思っていますので、私どもの目指す放射線治療というのは、放射線治療の機械があって、術前もしくは術後の患者さんの放射線治療、例えば乳がんの後の放射線治療とか、あと直腸がんは手術の前に照射すると成績がいい、あとは食道がんに関しても照射するといいということがある程度はわかっていますので、そちらのほうに持っていったらなというところなんです、現時点では、子供を産み育てる環境をつくろうということで、産科・婦人科病棟とNICU、GCUの建設に向けて邁進していくつもりでいますので、その後に考えることになるかなと思うので、時期的にはこの計画の最後の辺に出てくるのかなと考えています。

○会長（小林清三君）

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

ほかにございませんか。なければ、移らせていただいてよろしいですか。

（「はい」の声あり）

○会長（小林清三君）

それでは、次に、産科・婦人科建設事業概要について、当局のご説明をお願いします。

○病院建設対策室長（鎌田大輔君）

病院建設対策室長の鎌田です。よろしくお願ひします。

中長期計画案見直しの中でも、地域の事業としてうたわれております産科・婦人科の開設に向けて、建設の事業概要をご説明します。現在、基本設計が2月に完了し、実施設計を進めている状況です。

概要につきまして、新聞報道などもありますので皆さんご存じかと思ひますけれども、改めて資料3に取りまとめましたので、簡単にご説明をしたいと思います。

今回の産科・婦人科の開設に当たりまして、現在の施設、病棟と外来棟がありま

すけれども、その改修での対応は困難なものですから、増築という形で現在の敷地内に整備する計画を立てております。

規模、構造関係につきましては、鉄骨造で地上3階建て、延べ床面積は3,350平米を計画しております。

配置につきましては、現在の病棟、それと今回の震災の復旧・復興による外来棟、それらの施設と一体での計画ということを目指しまして、L型の敷地、2万8,000平米ほどありますけれども、この中心部で病棟と外来棟との連携、そういったものを考えまして、南側の駐車場の位置に計画しております。

規模としまして、延べ床面積は3,350㎡ですが、2階の病棟と産科・婦人科の病棟の面積が一番大きくなりますので、建築面積では1,500平米ほどになります。今の駐車場が60台ほど最終的には潰れますけれども、これは、工事期間中になりますけれども、完成後はその部分を新たな施設として計画しております。

黄色とピンクで分けておりますので、黄色のところは既存の施設になりまして、22年に完成しました病棟、それと25年に完成しました外来棟と、今回の整備予定の産科・婦人科診療棟、仮称ですけれども、計画しております。

現在は、240床の病床数なんですけれども、産科・婦人科でそれぞれ15床ずつで30床、それとNICUの3床、GCUが6床で9床、合わせまして39床分が増床、合計で279床を計画しております。

次になりますけれども、施設の主な概要としまして、3階からになりますけれども、3階にNICUの3床、それとGCUの6床、同じフロアで産科・婦人科の外来部門、それぞれ独立した形で産科診療、待合室、それと婦人科の診療室、待合室と分けて真ん中をスタッフの通路というような形で外来の施設を計画しております。

3階につきましては既存の病棟のほうとつながりまして、既存病棟3階は小児科になります。NICU、GCUとの連携とかそういったものも含めまして、既存の施設と連携を深めた形で計画しております。

2階のほうに入りますと、産科・婦人科病棟それぞれ15床ずつで、新生児室、沐浴、調乳、授乳室、指導室とあります。同じフロアに分娩室と陣痛室を設けまして、分娩室が2室、LD室が1室、陣痛室が2室になります。

ここの部分が渡り廊下で、既存の外来棟を通りまして病棟のほうとつながります。病棟のほうは、このフロアは手術部門がありますので、緊急的な帝王切開とかそう

いったものにも対応できるような形で同じフロアに設けております。

下にある立面の図面のほうがわかりやすいかと思っておりますけれども、右側が今回の産科・婦人科の診療棟になります。渡り廊下で2階と3階がつながる状況、3階のほうがちよっと飛んでいますけれども、外来棟、L型といいますか、配置の関係でこういうふうになっておりますけれども、病棟の3階、小児科になりますけれども、こことつながるようになります。あと、2階のほうは産科病棟、分娩関係、それと外来を通過して、手術室のある病棟とつながるといった形で一体的な連携を図るような計画にしております。

事業の計画としまして、現在は実施設計を進めております。実施設計は大体6月ぐらいに完了しまして、同じ時期に建築確認とか法的な手続含めて、発注の手続も6月中に行いたいというふうに考えております。

実際に工事のほうの入札等含めまして、7月には着工できるような計画で現在進めております。工事期間としましては、標準的には大体14カ月ぐらい、外構整備とかも含めまして、完成予定としては8月ぐらいを予定しております。

その間、その後になりますけれども、開設準備あるいは医療機器の設置といったものを終えまして、オープンというような運びになるかと考えております。

事業概算につきましては、26年度に設計とかも入っておりますので、そういうものを含めまして、今回の建設事業につきましては25億9,000万円ほどを予定しております。内容につきましては、地質調査、設計、工事の監理とかも含めますけれども、そういった業務委託と工事請負、これは増築工事分、それと、既存改修も一部入っております。それと医療機器・備品等の購入、そういった内容での事業費になります。

現在、実施設計を進めておりまして、院内での建設会議等を通して、その中で、大体週2回、あと打ち合わせ等は毎週1回やっているような形で、その都度対応する形で、時間ないんですけれども、一生懸命進めている状況です。

以上です。

○会長（小林清三君）

はい、どうも。

ただいま産科・婦人科建設事業概要についてご説明ありましたが、委員の皆様のご質問、ご意見等を承りたいと思います。

どうぞ。

○須賀川薬剤師会会長（細井正彦君）

工事が始まるということは、駐車場が潰れて工事現場、あと工事車両とか入るわけですし、それによって病院関係の患者数というか外来、まあ入院というのもあるかわからないですけども、患者数の影響というのはどの程度考えていらっしゃるのかなど、ちょっとお聞きしたいんですけども。

○会長（小林清三君）

どうぞ、ご当局。

○病院建設対策室長（鎌田大輔君）

工事期間中は、最初、敷地の配置の中で先ほど60台とお話ししましたが、工事期間中は作業のスペースとかもありますので、下の、今、弥六像あたりの駐車場の部分を含めると、大体77、78台が使えない状態になります。現在、外構環境の整備の中で駐車場225台ありまして、そこから70数台落ちますので、140から150台ぐらいで、災害復旧のときに改修工事で外来棟の解体とかそういったものを進めていたときと同じぐらいの状態になりますし、あとは現状で患者数、外来の患者さんの数もふえておりますので、今現在の対応策として幾つか考えておりまして、現在の武道館前の駐車場、市の駐車場ですが、そこを職員駐車場として市から借り受けておりまして、大体130台ぐらいの駐車スペースになります。工事期間中につきましては、その大体60台から70台、外来駐車場として不足する分を外来駐車場としてそこを仮駐車場に対応しまして、職員のほうの駐車場につきましては、市のほうといろいろご相談させていただきまして、駅西地区のほうにちょうど、開発を予定している敷地を市のほうで持っていましたので、市の開発の開始の期間が28年度以降ということですから、その場所を借りて、ちょっと遠いんですけども、職員の駐車場としてそちらを確保するというので、今現在進めているのが1つです。

あと、もう一つは、西循環、東循環の市内バスがあるんですけども、それを公病の玄関前まで持ってきてもらえるかどうかということは今検討しておりますけれども、実際、バスの利用者が、調査の中で見ますと、1日何人かということみたいなものですから、もっとバスの利用を促進するような形で院内での、表示はしているんですけども、コマーシャル含めてやっていきたいというのがもう一つあります。

また、シャトルバスの運行計画はあったんですけども、まだまだ現状ではちょっと対応難しいかなと、様子を見ながら対応していこうと思います。

立体駐車場も一時考えたんですけども、実際、これから整備するには期間と費用も、例えば一部駐車場スペースとして潰しまして、2階建ての立体駐車場にして70台ぐらいはふえるんですけども、その際、2億とかそのくらいかかるような建設費用が出てきますので、それはちょっと実現性に乏しいかなというようなところで、ちょっと難しいなというように考えております。

さらに、院内での待ち時間とか、回転をよくするために、今でもいろんな対策をとりながら進めているんですけども、そういったものをできるだけ短縮していくような対応とか、それと、面会の方と付き添いの方が午前中、外来駐車場にとめられる方がおりますので、その辺のところ、院内では、家族の方でも午前中は、基本的には面会は午後からなんですけれども、午前中はとめないでくださいというようなことを出すのが1つと、あと、付き添いの方でどうしてもとめなきゃならない場合は武道館のほうにとめてもらって、それも許可制みたいな形で、ちゃんと登録してとめてもらうような形で今、院内でのそういった駐車場の対応というのをとっている状況です。それは今後も続けていきたいと思っております。

以上です。

○須賀川薬剤師会会長（細井正彦君）

ありがとうございます。

○会長（小林清三君）

よろしいですか。

ほかにございませんか。

はい、どうぞ。

○鏡石町保健委員会副会長（柳沼信夫君）

今度の産科、前の国立病院とのことがあって、周りの方から、若い方の産科の場所がないという不安的な声があったというか強い、そういう声も聞こえるんですが、今回のこの建設事業、本当に計画どおり進めていただければというふうに思います。よろしくをお願いします。

○会長（小林清三君）

よろしいですか。

ほかにございませんか。

なければ、お許しいたいて私のほうから一言質問させていただきたいんですが、これは市内の他の産婦人科に及ぼす影響なんかはいかがなものでしょうか。

○院長（三浦純一君）

市内の産科・婦人科の先生方が次々にやめたいということで、実は、我々のほうには情報が入ってきまして、何とか続けて、須賀川市内で産めるようにしてほしいという要望はずっと前から、福島病院と統合しようとかというときからございまして、それを見ますと、むしろ歓迎しているのが現状です。

それから、福島病院からは明らかに引き上げるということで承っていたのが2年前の9月だったんですけれども、昨年9月、10月ぐらいから、きちっと当院に建ててくれるのであれば、福島病院から当院に持ってきますよという、産科・婦人科の先生がおっしゃってくれましたので、先週の金曜日、産科・婦人科の藤森教授のところにお会いしに行ったら、指導できるような医師を、産婦人科の医師を2人、それから研修医が1人の計3人でお願ひしますということになっています。ただ、妊婦さんが困らないようにうまく引き継いで、その時期に生まれようとしている人は、向こうで登録してもこちらに移ってお産ができるようにということで配慮をしようということで話を進めています。

ですから、その時期に、向こうにかかっているからもう私どこで産んだらいいんでしょうというようなことはないように配慮しながら、うまく移行ができるように持っていければなと思って、実際にそのことを産婦人科の教授ともお話をしておりますので、うまく引き継ぎというんですかね、そこで、こちらの病院に移るという意味合いは、産婦人科の教授にしてみれば、こちらに麻酔科がいる、あと優秀な内科医がいるし、困ったときには外科の手助けもあると、向こうにはないのでなかなか継続が難しいなと思っていたところ、市町村の協力があって、こちらで建てる。じゃ、やっぱり3人出しましょうというので、今よりも多い人数を割いてくれるそうなので、これは県内的にも極めて珍しいというんですか、本当はできないことをやれるようになったので、それは市町村の首長さんたちとか、いろんな団体の方が一緒になって須賀川の中に産科・婦人科を残そうということでできているんだと思いますので、淡々と、しかしちょうどそのときに妊娠して産む人たちが、お母さんたちが困らないようにだけ配慮しながら進めていきますので、周りの産婦人科の開

業医の先生とかとのあつれきとかそういうことじゃなくて、みんなで協力してやろうということで今進んでおりますので、どうぞご安心くださいということをお願いいたします。

○会長（小林清三君）

非常に市民の要望の強い部分でありましたので、特に女性の皆さんから産婦人科が欲しいというのがありましたので、大変結構なことだと思います。

ほかに皆さんのほうからございませんか。

○事務長（菅野俊明君）

お手元に参考資料ということで、27年度予算書というので、これは25日、企業団の議会で承認いただいた予算というほうになります。1ページのほうで先ほどお話ししましたように、来年度は患者数を入院210人、外来患者を320人、こういう患者数、あと診療単価で予算編成しております。それと、大きい事業としては、今お話がありました産科・婦人科の建設、これも非常に大きな来年度の事業でありますので、この部分については、9ページのほうの資本金収入及び支出、建設改良費というところで、これについては27年度分ということで示してございます。

こちらのほうも、あと県のほうに、国の新しい医療介護確保基金という制度として新しく示されていますので、既に県のほうには事業提案をしまして、そちらのほうも見込んで、ぜひ県とも、構成市町村とも緊密に連携をとりながら、そういう補助金もきちっと確保していければなということ考えております。

詳しくはきょう報告や説明いたしません、あと、またこれをもらっていただければというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○会長（小林清三君）

いかがですか。ただいまご説明ありましたが、何かこの点について皆様のほうからございませんか。

なければ、その他についてであります、委員の皆様から何かございますか。

それでは、なければ、ご当局のほうでございませうか、その他で。

はい、どうぞ。

○事務長（菅野俊明君）

私、ちょうど5年、こちらの事務長職ということで、まあ明日で丸5年ということになりまして、期限付きの任用職員ということで、この間、事務長職ということ

で担当してきました。

公立病院の改革プランが始まって、震災があって、そして中長期計画ということで、病棟の建設、そしてこの外来棟建設、そして続いて産科・婦人科の建設ということで、病院建設というのは40年、50年に一回ですので、集中的にそういった時期に事務長職ということで、ちょうど重なったことではありますけれども、私自身も非常に貴重な経験をすることができました。

いろいろ大変な部分もありましたが、本当に先生方、職員の皆さん、あと地域の皆さんに支えられて何とか5年間、無事に過ごすことができたかなというふうに思います。

評価委員の皆さん方には本当にご支援いただきました。これからもぜひ新しい病院づくりに皆さんのお力添えをいただければというふうに思います。新しい事務長、1日から来ますので、私同様よろしくお願ひしたいと思います。

どうも、大変お世話さまでした。

○会長（小林清三君）

どうもお疲れさまでした。

ほかにご当局のほうからありますか。

ないようでございますので、それでは、本日の議題は全て終了いたしましたので、議長の役を解かせていただきたいと思います。

なお、ただいま菅野さんからお話がありましたように、5年間にわたる、長期間にわたって公立病院の発展のために尽くされましたご功績に、本当にありがとうございました。ひとつ、今後は健康にご留意の上、また新たな立場でご活躍いたしますよう心からご祈念を申し上げます。

○総務課長（塩田 卓君）

ありがとうございました。

なお、次回、第7回になりますが、中長期計画評価委員会開催の時期ですが、27年度10月ごろを予定させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

これをもって、第6回公立岩瀬病院中長期計画評価委員会を閉会いたします。  
ありがとうございました。

午後3時 閉会